

高校地理プリント (過去問類似)
自然環境 No.4

名前

得点

/10

問1 死海やタンガニーカ湖、マラウイ湖などの湖沼の形成に深く関わっており、プレートの広がる境界における地殻変動によって地表が陥没して生じた、細長く急崖に挟まれた凹地の地形名称を答えよ。(2018年 全国公立入試 類似)

1. 造山帯 2. 地溝帯 3. 火山帯 4. 変動帯

問2 最終氷期に厚い大陸氷河に覆われていた地域であり、氷河の後退に伴って形成された無数の氷河湖や、氷河が削り残した丘陵地などの氷河地形が広く分布し、その景観から「湖と森の国」とも称される北ヨーロッパの国はどこか。(2009年 全国公立入試 類似)

1. アイスランド 2. フィンランド 3. スウェーデン 4. アイルランド

問3 アフリカ大陸南西岸のナミブ砂漠は、極めて乾燥している一方で、沖合を流れる寒流の影響によりしばしば霧が発生し、固有の生物がその水分を利用して生存している。この砂漠の形成および霧の発生に直接影響を及ぼしている寒流を何というか。(2024年 全国公立入試 類似)

1. ブラジル海流 2. ベンゲラ海流 3. カナリア海流 4. アガラス海流

問4 南半球の緯度30度から40度付近の大陸西岸に位置し、7月ごろに偏西風や前線帯の影響を受けて冷涼で湿潤な気候となり、1月ごろには中緯度高圧帯に覆われて温暖乾燥となる気候を示す、アフリカ大陸南端部に位置する都市はどこか。(2020年 全国公立入試 類似)

1. ケープタウン 2. ヨハネスブルク 3. カサブランカ 4. プレトリア

問5 プレートテクトニクスにおいて、隣り合うプレートが互いに遠ざかり、裂け目からマグマが噴出して新しい地殻が形成される「広がる境界」に発達する、大西洋中央部にみられる大規模な海底山脈状の地形を何というか。(2026年 全国公立入試 類似)

1. 海盆 2. 海山 3. 海溝 4. 海嶺

問6 かつて大陸氷河に覆われていたヨーロッパ北部の平坦地には、氷河の侵食作用によって形成された無数の湖沼が点在している。この地域一帯の大部分を覆っている、冷帯(亜寒帯)を代表する針葉樹林の呼称を何というか。(2012年 全国公立入試 類似)

1. バンパ 2. タイガ 3. セルバ 4. サバナ

問7 日本の気候指標の平年値において、日降水量100mm以上の多降水日が太平洋側の山麓や南西諸島に多く、日最深積雪20cm以上の積雪日が北日本や日本海側に集中するのに対し、夏の強い日射やフェーン現象、ヒートアイランド現象などの影響により、内陸盆地や大都市を抱える地域で多く観測される、日最高気温が35℃以上となる日の気象庁による呼称を何というか。(2020年 全国公立入試 類似)

1. 熱帯夜 2. 真冬日 3. 猛暑日 4. 真夏日

問8 南アメリカ大陸の西岸沖に位置し、海洋プレートであるナスカプレートが大陸プレートである南アメリカプレートの下に沈み込むことで形成されている、非常に深く細長い海底の凹地を何というか。(2026年 全国公立入試 類似)

1. アリュースシャン海溝 2. トンガ海溝 3. マリアナ海溝 4. ペルー・チリ海溝

問9 南アメリカ大陸西岸の太平洋沿岸では、南から北へ向かって流れる寒流の影響により、深層から栄養分に富んだ海水が湧き上がる湧昇流が発生する。このため、アンチョビ(カタクチイワシ)などの漁獲量が非常に多い世界的な好漁場が形成されている。この寒流の名称を何というか。(2012年 全国公立入試 類似)

1. リマン海流 2. アラスカ海流 3. クリル海流 4. ペルー海流

問10 アフリカ大陸において、1月には南緯10度から20度付近で降水量が多くなり、7月には北緯10度から20度付近で降水量が多くなるという、熱帯収束帯の南北移動の影響によって明瞭な雨季と乾季が生じる熱帯の気候区分を何というか。(2025年 全国公立入試 類似)

1. 熱帯モンスーン気候 2. 熱帯冬季少雨気候 3. 熱帯雨林気候 4. サバナ気候

答え合わせ・解説 No.4

問1	答え 2 地溝帯	プレートが互いに遠ざかる「広がる境界」では、引っ張る力によって地殻に裂け目が生じ、一部が陥没して急崖に囲まれた細長い凹地が形成される。アフリカ東部の大地溝帯（リフトヴァレー）や、その北端部に位置する死海周辺の陥没帯がその代表例である。これらは、氷河の侵食作用や河川の堆積作用ではなく、プレート運動という大規模な地殻変動によって形成されたものである。
問2	答え 2 フィンランド	北ヨーロッパに位置するフィンランドは、国土の大部分が最終氷期に大陸氷河の下にあった。氷河の侵食作用によって削られた窪地に水が溜まることで、国内に無数の氷河湖が形成された。このため、フィンランドは「千の湖の国」や「湖と森の国」とも呼ばれ、平坦な地形に多数の湖沼と針葉樹林（タイガ）が広がる独特の景観を呈している。
問3	答え 2 ベンゲラ海流	アフリカ大陸南西岸のナミブ砂漠は、中緯度高圧帯の影響に加えて、沖合を北上する寒流のベンゲラ海流の影響を強く受けている。寒流の上空では空気が冷やされて安定するため、上昇気流が発生せず雨が降りにくい海岸砂漠が形成される。一方で、冷やされた空気が水蒸気を凝結させるため、沿岸部では頻繁に霧が発生し、これが砂漠の生物にとって貴重な水分補給源となっている。
問4	答え 1 ケープタウン	南緯30～40度付近の大陸西岸には地中海性気候（Cs）が分布する。アフリカ大陸南端部に位置するケープタウンは南緯約34度に位置し、南半球の冬季にあたる7月ごろに偏西風帯の影響で雨が多くなり、夏季にあたる1月ごろに中緯度高圧帯の影響で乾燥する典型的な地中海性気候を示す。
問5	答え 4 海嶺	プレートの広がる境界では、地下からマグマが上昇して新たな海洋プレートが創出される。このとき、湧き出したマグマが冷え固まって連なる海底山脈が形成される。これが海嶺であり、大西洋中央部を南北に走る大西洋中央海嶺などがその代表例である。一方、プレートの狭まる境界では海溝などが形成される。
問6	答え 2 タイガ	シベリアや北欧などの冷帯（亜寒帯）地域には、針葉樹を中心とする広大な森林帯が広がっており、ロシア語に由来してタイガと呼ばれる。フィンランドなどの北欧諸国では、過去の氷河作用によって形成された湖沼群の周囲にこのタイガが分布し、林業や木材加工産業が盛んに行われている。
問7	答え 3 猛暑日	日最高気温が35℃以上の日は猛暑日と呼ばれる。猛暑日は、夏の太平洋高気圧による強い日射に加え、内陸盆地でのフェーン現象や、大都市圏におけるヒートアイランド現象などの要因が重なることで、関東、東海、近畿、瀬戸内、九州地方などの内陸部や都市部で多く観測される特徴がある。
問8	答え 4 ペルー・チリ海溝	南アメリカ大陸の太平洋岸（西岸）では、ナスカプレートが南アメリカプレートの下に沈み込む「狭まる境界」が形成されている。この沈み込み帯に沿って、非常に深い谷状の地形であるペルー・チリ海溝が発達している。この境界付近では、アンデス山脈の形成や火山活動、巨大地震の発生が活発である。
問9	答え 4 ペルー海流	南アメリカ大陸西岸を南から北へ流れる寒流はペルー海流（フンボルト海流）である。この海域では、恒常風である南東貿易風の影響で表層の海水が沖合に運ばれるため、それを補うように深層から冷たく栄養塩類に富んだ海水が湧き上がる（湧昇）。これによりプランクトンが豊富になり、アンチョビなどの好漁場が形成される。なお、数年に一度この海流の勢力が弱まり海面水温が上昇する現象をエルニーニョ現象と呼ぶ。
問10	答え 4 サバナ気候	赤道周辺の熱帯雨林気候の南北外側には、熱帯収束帯（雨帯）と亜熱帯高圧帯（高気圧帯）が交互に支配するため、雨季と乾季がはっきりと分かれる気候区が分布する。1月には熱帯収束帯が南下するため南半球側が雨季となり、7月には北上するため北半球側が雨季となる。この気候区はケッペンの気候区分においてAwの記号で表される。